

出版レーダー

▽進藤 貞和氏 (3回)

『人を活かす 私の実践経営録』ダイヤモンド社・定価 11200円

▽公文 公氏 (7回)

『子供を伸ばす』PHP研究所・定価 10000円

▽宮田 光雄氏 (22回)

『きみたちと現代』岩波書店・定価 5300円

『いま日本人であること』岩波書店・定価 15000円

『アウシュヴィッツで考えたこと』みすず書房・定価 16000円

『生きるということ』岩波書店・定価 5800円

▽公文 俊平氏 (28回)

『転換期の国家の役割 簡』マディック・ミネ氏

講演テープをおわけします！

三菱電機名誉会長、進藤 貞和氏の新年総会での講演を収録したカセットテープを送料とも千円でおわけし申し込み下さい。

支部だより

●年会費納入状況

六二年度年会費納入者は、

六月二十日現在で合計四百六十名になりました。昨年は六百二十名の方からご協力いただいています。これと比較すると今年は若干ペースが落ちていますが、未納の方はぜひ二千元を振り込んで下さい。

昨年の会費と混同したり、母校からの名簿代納入と混同したりして、「払った」と思っている方もいるようです。

●六二年前半支部活動報告

▽一月二十四日 関西支部総会(近藤顧問出席)

▽一月三十一日 新年総会(霞ヶ関ビル・東海大学校友会館)

▽二月十三日 常任幹事反省会(代々木・新日鉄寮)

▽六月五日 筆山編集会議

お詫び 前号(3号)7頁の「関東支部草創の頃」の写真説明中、引田嘉男とあるのは弘田嘉男氏の誤りでした。お詫びして訂正します。

『あばよなんてまっぴらさ！』講談社・定価 11200円(第2章に三根校長のエピソードあり)

●上岡氏が日本鋼管野球部監督に就任

四十一年春の選抜大会で準優勝、「小さな大投手」と讃えられた上岡誠二氏(四二回)

がこのほど社会人野球の強豪・日本鋼管野球部監督に就任した。

同氏は慶大から日本鋼管へと進んで、小柄な体には驚くをみなぎらせるピッチングでマウンドを支え、五十四年に現役を引退していた。鉄冷への厳しい時期だけに「こんなときこそ頑張っている成績を残すのが僕の使命」と闘志満々に抱負を話していた。

筆山会だより

筆山会例会(毎月第三木曜日正午・銀座ねぼけ)は四月より毎回話題提供者を決め、活躍中の同窓の有益な話を聞きながら食事をし懇親を深め

ています。

◇四月 公文俊平氏(28回)

「現代学生気質」

◇五月 山中和正氏(24回)

「半導体の話」

◇六月 前田典彦氏(28回)

「知的サービス産業について」

例会案内希望の方は事務局までご連絡下さい。

●第12回筆山会ゴルフ

5月23日鳥山城C・Cで行われ、雨中、強風の悪条件下だったが、30回の大町氏が優勝した。次回は、11月7日の予定。

①大町 玄 30回 G H N 91 15 76

②尾神 俊彦 33回 88 10 78

③杉村 武秀 30回 89 8 81

④中島 宏 38回 95 12 83

⑤山中 和正 24回 114 29 85

〔その他の参加者〕北岡龍海 5回・宮地貫一 21回 秋山邦雄 25回・山村泰造 26回 鍋島高明 30回・浅井伴泰 30回 大倉健資 30回・溝渕真清 32回 澤村良節 33回・宮川洋治 33回



筆山

第4号/1987・7

運動部/部名	県 体 成 績
陸 上 男 子	団体 4 × 100m R = 2 位, 4 × 400m R = 6 位。個人 200m = 6 位, 400m = 6 位, 400mH = 4 位, とともに四国大会へ。
陸 上 女 子	個人 100m = 6 位, 200m = 4 位, 400m = 6 位, とともに四国大会へ。
卓 球	個人 = ベスト 16, 四国大会へ。
ハンドボール	2 位, 四国大会へ。
バスケット男子	2 回戦敗退。
バスケット女子	2 回戦敗退。
ソフトボール	3 回戦敗退。
バレーボール男子	ベスト 8。
バレーボール女子	予戦グループ戦敗退。
剣 道	団体 = 決勝トーナメント 2 回戦敗退。個人 = 2 位, 四国大会・全国大会へ。
柔 道	団体 = 予選リーグ 2 位。
バドミントン男子	団体 = 4 位, 個人 D = 4 位, S = 準優勝, とともに四国大会へ。S = 全国大会へ。
バドミントン女子	団体 = 2 位, 個人 D = 4 位, とともに四国大会へ。
軟 式 蹴 球	団体 = 2 回戦敗退。個人 = 4 回戦敗退。2 回戦敗退。
庭 球 男 子	団体 = 2 位, 個人 = 優勝, とともに四国大会へ。個人 = 全国大会へ。
庭 球 女 子	団体 = 3 位, 個人 S = 2・3 位, D = 3 位。S = 2 名, D = 1 組四国大会へ。S = 1 名全国大会へ。
空 手	団体 = 2 位, 個人 S = 4 位, D = 3・4 位, とともに四国大会へ。
自 転 車	団体 = 4 位。個人女子・型・組手 = とともに 1 位, 全国大会へ。
野 ぎ な 球 た	団体イタリアン・チーム・レース = 5 位, 団体追抜 = 5 位, 4000m 個人追抜 = 6 位, とともに四国大会へ。
	1 回戦敗退。
	団体 = 2 位, 個人演技 = 3 位, とともに四国大会へ。
文化部/部名	活 動 状 況
吹 奏 楽 部	第22回スプリング・コンサート, 観客 = 約1000名。
インターアクト	交通遺児育英募金, 集計 = 57,401円。
棋 道 部	国際ロータリー研修会, 2 名参加。中学将棋全国大会予選優勝, 全国大会へ。

◆会員名簿代納
入に協力を!!
未納の方は、三千円を母校の名簿係まで送金して下さい。

本部発
行の'87会
員名簿代
議をする
ことにな
った。

役員改選についても話し合
われ、決定は後日に持ちこ
されたが、同窓会活性化の
副幹事長二名の新設が決
まり、人選は幹事長に一任
された。また同窓生の最大
の関心事である母校活
性化をめぐる討議も議論百
出でタイムオーバーとな
り、七月十一日に継続審
議することになった。

母校だより

●61年度末退職の先生

▽小松 博行先生(社会)
昭和22年より40年間。その間、ホーム担任、図書部長、57年から教頭。

▽永野亮三郎先生(理科)

昭和29年より33年間。その間、ホーム担任、生徒部長、整理部長。

▽武中 敏雄先生(数学)

昭和39年より23年間。そ

●62年度より新任の先生

▽久米 将裕先生(数学)
二年間高校勤務。

▽阿波谷博史先生(英語)

都立大・英文卒。

▽石井 正仁先生(保健体育)

期限付専任講師。病氣療養中の岡村熊長先生の復帰まで。

国士館大卒。

●校内人事

▽新任 教 頭

正木 哲夫先生

▽新任 指導部長

扇谷 隆男先生

▽新任 特活部長

松尾 功禄先生

●海外研修

▽井上 聖香先生(英語)

約一年の予定でアメリカのイースタン・イリノイ大学を中心に。8ページに留学レポート掲載

●「志願者調査対策委員会」

の答申について

昨年十月末に提出された「志願者調査対策委員会」委員長「龍尾良雄先生」の答申は、多方面にわたっており、委員会に諮るべきもの、別研究員会によるべきもの、校長直裁によるものなどがあり、また答申前にすでに実施中のものもあり、優先順位により鋭意検討中です。

目下煮詰めつつあるものも、察建設。

本部だより

同窓会本部の役員会



再会の時

'87新年総会風景

土佐中・高同窓会関東支部の1987年総会が1月31日、母校の松浦勲校長や、同窓会本部・各支部の役員を迎え、東京・霞ヶ関ビル33階の「東海大学校友会館」で開催された。出席者は300名を数え、一昨年の350名につぐ盛会で、まさに「集う同胞意気強し」だった。

総会は尾崎正治NHKアナ(28回)の名司会で始まり、北岡龍海支部長挨拶、会計報告、三菱電機名誉会長・進藤貞和氏(3回)の講演「統帥と経営」と続いた。後半の懇親会では、KKスペース・竹内一郎氏(36回)提供の「東京・高知往復航空券2枚」など豪華景品のあたるビンゴ・ゲームが人気を集めた。全員が地上33階に出現した「小土佐」にしばし酔いしれた一夕だった。



タイ国インドシナ難民 眼鏡贈呈プロジェクト

38回／富士メガネ 窪田 秀忠

昨年十一月八日より十九日まで、国連難民高等弁務官の要請に基づき、富士メガネ第四回タイ・インドシナ難民キャンプ眼鏡贈呈プロジェクトに参加してまいりました。これはタイ国の周辺にある難民キャンプ七か所（収容難民約十二万人）を順次訪問し、視力検査の上、眼に合った眼鏡を直接寄贈しているもので、今回で四回目になりました。この計画を思いついたのは、一九八一年の読売新聞で、カンボジア・ポルポト政権が眼鏡をかけているのはインテリ、上流階級の人々であり、旧政権の支配者であるとして、眼鏡をかけている人を無差別に銃殺した為、皆眼鏡を捨ててしまい、キャンプ内での職



検査中の筆者

いし、又日本は近視がほとんどなのに対し、難民は遠視系が多いこともあって、余り役に立っていないのが実情でした。そこでもっと役に立っている方法はないものかと考えていた所、一九八三年は当社の創立四五周年に当り、その記念行事の一環として、同じアジアの一員としてアジアの困っている人々のお役に立てればと、思い切つて難民キャンプに直接出向き、視力検査の上、眼に合った眼鏡を作つてあげることにしたわけです。しかし実際に難民キャンプに出向くとすると、病気の心配とか、周辺ではまだまだ戦いが続いており、場所によっては、流れ玉に当る可能性があると、又地雷竹やりが埋められていて危険だ、他に方法はないのかなどと随分反対もされましたが、一度決めたこと、後へは引かれず志願した四人の社員と出発しました。

水で車がプカプカ浮き、バスとモーターボートがバンコック市内で衝突する有様、おまけにキャンプ周辺での生活の為に非衛生で、食物はヤシ油使用のせいでくさくてほとんど食べられず、猛烈に暑いのにクーラーもなく、水不足で顔を洗うにも不自由なほどで、シャワーもなく、ほとほとまいました。しかし毎日毎朝、沢山の難民が我々を待ち受け、眼鏡をもらつて手を合わせ、何度も何度もおじぎをし、涙を流して喜んでくれるのを見て、やっぱり来て良かったなと、胸にジーンとききました。二回目からは我々のプロジェクトに国連が注目し、国連難民救済事業の一環として、組みこんでくれました。以後二、三、四回と国連の全面協力のもとに行われましたので、宿舎、車をはじめとして待遇、スケジュールも随分と楽になりました。それでも今回の第

四回は一週間の走行距離約三千キロに及び、検査数は八〇〇名、眼鏡は七五〇名に手渡されました。今回迄に実施した我々のプロジェクトで直接検査し、手渡した眼鏡は約三五〇〇組、その他我々が現地で教育した看護士（これが優秀で熱心）が各キャンプで順調に育っており、この看護士によって検査、手渡された眼鏡（我々がその都度送ったもの）が八五〇〇組と、四年間で合計二二〇〇〇組にも達しました。

今年も又国連より要請があり、十一月に私を含む当社員が五名、現地に出発します。もう大分慣れたとはいえ、暑さと、日本の終戦直後のような難民キャンプ及びその周辺環境は我々にはかなり厳しいですが、手を合せ、涙を流して喜んでくれる難民のいる限り、この難民プロジェクトを

今、こんなことやってます③

続けてゆきたいと思っています。



INTERVIEW

③

仲人は宮尾登美子さん “片地の秀才”に憧れ土佐中へ

■作家 倉橋 由美子さん (29回)



倉橋由美子さんが『バルタイ』で文壇に衝撃のデビューをしたのは、昭和三十四年、まだ明大仏文科に在学中であった。以来、三十年近くが経過、『スマイヤキストQの冒険』『暗い旅』『聖少女』『城の中の城』などの作品が生まれた。この間、女流文学者賞・田村俊子賞の受賞、結婚、アメリカ留学、ポルトガル滞在などがあり、やがて神奈川県伊勢原市で、ひっそりと主婦稼業にはいった。

ところが、この二、三年、『大人のための残酷童話』『シユンボシオン』『アマンノ国往還記』と、矢つぎばやに話題作を発表、健在ぶりを示してくれた。

インタビュのため、市ヶ谷までおいでいただいたが、その風貌は当代切つての女流純文学者というより、郊外に住む普通の奥さまといった感じであつた。

——まずは、近況をお知らせください。

「今、NHKラジオからたのまれたオリジナル・ドラマ『ポパイ』を書き上げたところで、七月四日に放送後、九月には出版されます。『ポパイ』ではなく、ギリシア語の感嘆詞ポパイですので、念のため、これも、十七年前にNHKの女性プロデューサーに「ぜひ」とたのまれ、しかも「お嬢さんの手を引いて家に帰ってくる親子のシルエツトがすばらしかった」などといわれ、つい引き受けたものです。

娘二人も、高校生になり、子どもが小さいからという逃げ口上が編集者に通用しなくなったので、しかたなく書いていけるようなものです」

——大作『アマンノ国往還記』のアマンノは……
「そう、土佐の『あまのん』

です。子供のときに見た、あまのんの異様な印象、それに女性が育児と男性から解放される未来を想定して書いてみたわけですね。

自分が否応なしに女であることは、ずっと心にかかっていました。娘が考古学をやりたいと言っていますが、女性として、「この生き方がよい」とは、何も言つてやれません。

母は家事をきちつとする家庭的な女でしたが、あはなりたいという思いがありました。しかし、家事は私も好きです。

病気の時以外は、毎朝五時に起きて、お弁当をつくりまします。おかずだけでなく、入れ物にも工夫をこらすたちで、各種弁当箱と袋類がいつぱいたまつてしまいました」

——ご主人との出会いは？
「『バルタイ』で女流文学者賞をもらったあと、大学院へ進んでいました。ところが、この二、三日後に、フルブライト留学の通知が来て、急遽二週間で籍を入れ、一か月後には三翠園で式を挙げたのです。

主人は、長野県飯田高松高校の出身です。『サンデー毎日』に東大高校別合格者が出ると、おたがいに「うちの学校が多い」と自慢しい、娘

思い出の先生がた①



髪はカラスの濡羽色

広田先生ご長女／30回 広田 伊佐子

広田 直吉先生 (昭和49年逝去)

最近とみにボケはじめた母が時々正気に戻つて父の思い出を話す。先日テレビの中曾根総理をぼんやり眺めながら、「お父さんは、こうべりじやつたがねえ」とポツリと云つた。ある時縁側で姫鏡台に向つて髪を撫付けていた父に、「えらい人は年寄つたらハゲるか白髪頭が多いぞね。あれ見てごらん」と、その時もテレビニュースの政治家達を見ていた母が、云つたのだそう。父は虫の居所が悪かつたのだろう、覗いていた鏡を庭石に投げつけて壊してしまつたという。

父はいつも髪を不自然な程に黒々と染めてポマードをつけ丁寧な髪にしていた。私達子供は白髪の方が年相応なのと陰口をたたいていただけで、その第二のヒゲが父だつ

ど、父の得意な顔を見ると何も云えなかつた。が母は、「髪はカラスの濡羽色、オシヤレシヤレでもホレテはないぞ!」とからかつては父を苦笑いさせていた。

又父は、朝洗面所を三十分は占領して家族を困らせていた。あの小さな顔を三十分もどう洗うのか不思議でならなかつた。着物の前をビチャビチャに濡らしながら顔をみがいていたのだ。(効果の程はあやしいが、まさにみがいていたのだと思う)。

母がはじめて会つた頃の父は髪を肩まで長くのばしてヒゲをはやした一風変つた早稲田の学生だつたという。その頃、早稲田には、第一のヒゲ、第二のヒゲと呼ばれる者がいて、その第二のヒゲが父だつ

たとか。若い時からオシヤレっ気はあつたのだろう。私が物心ついてからは足が悪かつたので、ズボン足が目立たないようにブカブカをはいていたが、きつともつとスマートにカッコよくして

いたかつたのではない。色は青が大好きだつた。濃い茶色は腐つた色だと云い好まなかつた。私は父の喜ぶ顔が見たくてよく青っぽいセーターを編んで贈つたものだ。「オー青らとしてええなあ」と子供のように喜んでくれた。父は骨の上に皮を着たような体型だつたので、何枚も何枚もシヤツやセーターを着込んでから背広を羽織つていた。心臓が弱かつたので、いつもシン

ドイシンドイと云っていたが、母は服の着過ぎが原因だと極めつけ、よく口喧嘩になっていたのを思い出す。父は恰好を考え、オシヤレで沢山着込んでいたのかもしれない。

父が亡くなる前々日、母に呼ばれて私は子供二人をつれてかけつけた。私達親子が来たとき、ふとんの上にヒョイと座つて、「オー来たか来たか」とこちらを向いた父の頭は黒々としたカラスの濡羽色だつた。もう死期が近づき目もかすんでしまつた父が髪を染めたという。母は、「あの世でもモテないかんきに」と泣き顔で云つた。父は死期を知つて髪を染めたのか、それとも又元気になると思つて染めたのか、どつちだつたのかわからない。母の相変らずのからかいに、にこりとしたように思う。いや、ほんとうは私も涙で父の顔などよく見えなかつたのだ。

(三〇回三〇ホーム・クラス誌「うきぐも」13号より転載。お母上は今春逝去されました)

マイペース・マイプラン

——息切れせずに、コツコツと……

定期積金

希望積立
(相互掛金)

少額定期積立

定期積立

高知相互銀行

百聞は一見に…を実感する日々



土佐高英語科教諭／イース
タン・イリノイ大学留学中 井上 聖香



学校のご好意により一年間 留學させていただくことになり、今アメリカにいます。英語を教えているので、一度は米国が英国で生活したいと思っていました。そこへ米国の大学へ留学生を世話している濱田君（55回）の尽力があり、実現することになったのです。大学はイースタン・イリノイ大学といい、州の中東部のチャールストンにあります。学生数約一万の中規模の大学です。留学生はたくさんいますが、日本からは私一人です。キャンパスは広大で、遠くまで芝生が広がり、女学生がビキニ姿で日光浴を楽しんでいます。チャールストンは、学生を

学でき、つくづくアメリカにいたのだと感じました。その後は、アパートを決めたり、銀行口座を開いたり、と生活を整えながら、今までにやったことのないゴルフ、ビリヤードをやったり、バーベキュー、パーティーに招待されたり、陸上競技大会、野球等のスポーツを見学したりと充実した毎日を送っています。又地元の中・高校を參觀させてもらい、学校生活にも触れてきました。先日は、ニューヨークの知人を訪ね、ミュージアム、自由の女神、エムパイアステートビル、世界貿易センター、国連、ミュージカル、ティファニー等を案内してもらい、大都市で起こっている事の一端を見ることができました。ニューヨークへの行き帰りには、シカゴものぞきました。こうして今までの知識を再確認したり、新知識を入れたり、Seeing is believing.を実感する一か月を送りました。

ゆたかなくらしのパートナー……

四国銀行

東京支店/千代田区内神田1-13-7
(電)03-291-3411
本店/高知市南はりまや町1-1-1

有利で便利な
優 期日指定定期 みつば
●1年複利で高利回り/●1年間の繰上後は期日自由/

ムリなく貯まる
優 自動積立定期 ふゆみ
●1回ごとのお預け入れを「みつば」でお積み立て/

どうぞよろしく/
〈四銀〉の強力コンビです。

今のところ事柄の背景にある深さ、広がりからなないので、全てがベールをかぶっているように不鮮明です。人がいて、家があり、道があり、生活は世界中どこでも同じだと言えるでしょう。しかし、基本は同じでも、全てがヴァリエーションです。このちがいの総和が大きなのしかかっています。一年で少しでも物が鮮明に見えるようになり、自分に合う物、合わない物が、わかるようになりたいと思っています。

あこがれから現実になり、out of the frying pan into the fireの連続ですが、頑張つてやっていきたいと思っています。明日から授業です。

からは『自分たちは入れなかつたくせに』とバカにされています。

——土佐中へ入るきっかけは？

「小学六年の頃、朝早く、県道に面した診療所の父から、

『片地の秀才は、もう通ったぞ』と、裏の家へ声がかかりました。公文俊平（28回・東大教授）さんのことです。入学されたばかりで、白線が輝いており、さっそうとした姿にあこがれていました。

それに、小松博行（13回）

先生は、京大の学生時代から歯の治療にいらしてましたし、

ところが、体が弱かったので、父は通学が無理だといって、受験を許可してくれませんでした。父に隠れて、小学校の裁縫室で夜の九時まで勉強してバレたり。それでも、小学校の担任の先生が家まで来て説得してくれました。

当時は、郡部は学力差があるといわれていましたが、市内の付属小と交換授業をやり、私は公開討論会の議長も務めていたので、市内の生徒にも絶対負けないう思っていました。

は、四国独立論をとうとうとぶっていました。女性では坂（樋口）景子（大阪医大）さん。村野四郎さんの詩や原書やら、次々と読み、ものすごく早熟な人でした。

英語の先生が、土佐高出身（谷敦雄さん・34回）だったり、縁が切れません。

人とも大学受験に失敗しました。医学部がだめで、医者になる夢も消えました。

いざ入学試験が終わわり、小松先生から『四十七番だった』と聞かされ、がっかりし、入学してからは勉強しませんでした。なにしろ弟が入学するまで、両親は土佐中に中間試験や期末試験があることを知らないほどでした。とにかく、

私は、園芸部へ入り、六年間瓦礫の中で花つくりをやっていました。向陽会の予算会議に出たら、女性が珍しくて、予算をいっばいもらったり、高橋道彦（25回）さんたちと寮の肥を汲み出したり、穂盛浩滋（25回）さんとオープンカーで福井へ菊の苗をもらいに行ったり。顧問の森下デメキン先生が熱心で、抜け出せませんでした。

——野球も好きだったと

当時は、結婚したら男の子をいっばい産み、家族で野球チームを作ろうと思ったほどです。ところが、娘二人で、もう希望を托すのは、母校の野球部だけです。最近、母校が甲子園に出てこないのは、淋しい限りです。今度出場したら、必ず応援に行きたいし、寄付もしなくてはと思っています。

——同級生で、印象に残っている人たちは？

先生といえば、吉本泰喜先生、あのクマテンに習った漢文で、今もなんとかやっています。

——父が歯科医専時代に、キャッチャーでキャプテン。藤井寺球場の医専大会にも出場したそうです。戦後、ぼろぼろのグローブを手に、キャッチボールの相手をさせられました。父は、野球部の里見寛彦（29回・歯科医）さんのお父さんとも仲良しでした。

倉橋さんの言葉のはしから、家庭に埋没したままの母への反発と、壮年の強靱なイメージを残したまま逝った父への思慕が感じられた。子やらいを終えたいま、非日常的な独自の創作世界がさらに豊かに結実することを期待したい。

「前後の学年にも優秀な人が多く、とにかく刺激を受けました。同級では、まず大野博道（東大医）さん。ボードレールやら、ランボーやら、かたっぱしから読んでいました。伊野部元彦（東大教養）さん

は、四国独立論をとうとうとぶっていました。女性では坂（樋口）景子（大阪医大）さん。村野四郎さんの詩や原書やら、次々と読み、ものすごく早熟な人でした。

——父が歯科医専時代に、キャッチャーでキャプテン。藤井寺球場の医専大会にも出場したそうです。戦後、ぼろぼろのグローブを手に、キャッチボールの相手をさせられました。父は、野球部の里見寛彦（29回・歯科医）さんのお父さんとも仲良しでした。

倉橋さんの言葉のはしから、家庭に埋没したままの母への反発と、壮年の強靱なイメージを残したまま逝った父への思慕が感じられた。子やらいを終えたいま、非日常的な独自の創作世界がさらに豊かに結実することを期待したい。

話題の周辺

私学の伝統校、土佐高校（松浦教校長）野球部が創立四十周年の節目を迎えた。土佐高野球は、二十八年夏の甲子園で松山商と延長十三回の熱闘を演じ、惜しくも準優勝。「優勝旗なき優勝校」と誉えられるなど、栄光の歴史を持つ。その後も、さすがらしいハッスルプレーで、高校球児の憧れとされた。その品性と風格は、東大、京大を目指す本県最高の進学校としての実績にも支えられた文武両道の校風が生み出したものだった。

ところが、この十一年甲子園から遠ざかり、この低迷に符合するかのうちに、進学校の盛名にも陰りが生じている。もはや、進学、スポーツの両立は不可能なのか。土佐高野球部の光と影を追いながら、同校の周辺を探ってみた。

遠ざかった甲子園

土佐高野球部がスタートしたのは二十二年春。新制高校に移行する二年前だった。当時の県高校野球界はあの前田祐吉投手（現慶大監督）を擁する城東中（現追手前高）の天下。同校のセンバツ準決勝敗退（22年）は「偉大なる敗者」と評された。

高校球史飾る栄光
土佐高が取って代わるのは、二十

七年。センバツで初めて甲子園の土を踏み、翌二十八年には溝淵幸男監督（現県高野球連盟）の下で春夏連続出場。夏の大会では決勝まで進んだ。優勝をかけた松山商との一戦は、延長十三回、2-3で逆転負けを喫したが、永野元玄主将（住友金店）らチーの「全力疾走」に代表

さし、全国のファンを沸かせた。当時進学面でも素晴らしい成果を挙げ、センバツ準優勝の四十一年は東大に十八人が合格。他の難関大学の合格者も大きく増え、学園とスポーツの両立を唱えた大崎光次元校長の理想が花開いた時代でもあった。

ところが、輝かしい歴史はサイクル安打で知られる主川寿選手（日本石油）らのいた五十年夏、五十一年センバツ出場を最後にフツリと途絶える。

甲子園に行かないだけではない。以前はたとえ甲子園出場を逃した年でも県予選では準決勝や決勝にしばしばコマを進めていた。それが、ここ数年は一、二回戦で姿を消すことも珍しくない。野球部の低迷に歩調を台すように一流大学への進学成績も落ち込んだ。昨年度の東大進学率は、ライバル芸高の十人に対して九人と初めて収めた。

その学芸は五十八、五十九年の全国総体ソフトボールで連続優勝したが、主力選手の中から東大、京大への現役合格者が出た。剣道部現役も東大に合格した。文武両道が台板の土佐高は、すっかりお株を奪われた格好なのである。そして今年、県高校体育大会では、ついに近年では初めて団体優勝ゼロに終わった。一体、土佐高はどうなっているのか。

影薄れた文武両道

「野球の不振は、今の土佐高が抱える問題が表に出ただけのこと。母校がふがいないから私は自分で学校をつくった」

二十八年の甲子園で応援団長だった福島清三さん（土佐県中理事長）はスバリ指摘する。

「教師が労働者になつてしまつて、スポーツでも勉強でも本心に熱心に指導する人がなくなつたと言ひ、スポーツ選手の特別進抜を採用した早大の例を挙げながら『野球の素質を持った子も入れてやるべきだろう』と言つた。

この声は野球部OBの一致した願いでもあるが、松浦校長は「進学、スポーツも低迷とはかりは言ひ切れぬ。根本的に変わったものはない。教育に起死回生の妙手はない。長い目で見てほしい」と先をかわした。しかし、同校同窓会の前副会長、田辺善九さん（田辺病院院長）の言葉は厳しい。

不振は学校の問題

「同窓会の支部などでは八五年にいつべんくらいは甲子園に出てくれんと困る」という声がどんどん出る。進学も、東大だけが大学ではないが、本県のようなところは進学成績を挙げて中央へ人材を送り出す必要がある。この何とも落ちてゐるといふことは学校の指揮官の問題だ。部員が全滅する」とまで言い切る。

土佐高野球部

光と影

要がある。この何とも落ちてゐるといふことは学校の指揮官の問題だ。部員が全滅する」とまで言い切る。

低迷の中で、野球部は六十年春から「復活」計画をスタートさせ甲子園への道を探っている。しかし、当初の計画は選手の確保でまず、まためどが立っていない。龍尾監督は「ここにはなんとしても足が

昭和二十二年に創部以来、春夏の甲子園準優勝各一回など輝かしい実績を築いた野球部が今年で創部四十周年を迎え、六月二十日に強豪池田高校を迎えて記念試合を行った。

野球部創部四十周年

試合は惜しくも逆転負けを喫したが、昭和二十八年夏、準優勝時の溝淵監督（投手）、山本部長（捕手）、永野主将（球審）、バッテリーは池田高校、びしいものがあるが、宇田理理事長も学校活性化のきっかけとして、同窓生が心を

一つにして大声を出して応援できる野球部復活（甲子園出場）に大きな期待をかけられているので、学校当局の理解と創意工夫が待たれるところである

今年の予選は一回戦（二十一日）室戸高と対戦、順当なら

二回戦（二十四日）で高知高とあたるが、例年になく混戦模様といわれており、久し振りの甲子園に向けて活躍が期待される。



輝かしい球史を誇る土佐高野球部。甲子園で伝統の純白ユニホームが躍る日はいつか。復活へ厳しい練習がきょうも続く（高知市北竹島町の土佐高グラウンド）